

鉢形城歴史博物館・城址見学と寄居北条まつりをたのしむ

2019・5・20 記 小川雅愛

写真撮影 大舘 徹・小川雅愛

実施日 令和元年(2019)5月19日(日)

参加者 会員 20 名(男性 11 名、女性 9 名)

第 58 回の長い歴史を数える寄居北条まつり開催 5 月 19 日(日)、参加者全員が集まるのに不都合のないように本川越駅西口に 9 時 15 分に集合して、寄居の会場を目指して出発した。こうした活動の成否は天候に左右され、ここ 1 週間は天気予報に一喜一憂する毎日、幸いほぼ晴天に恵まれ、梅雨入り前の格好の歴史散策とまつりをたのしむことができた。活動は日本 100 名城の一つと言われる鉢形城の史跡・遺構を歴史散策すること、鉢形城攻防合戦を彷彿させる北条まつりは一体どのようなものか自分の眼で確かめたいという二つを狙いとした。

■ 鉢形城歴史博物館 11:00～11:20

10 時 30 分に東上線寄居駅に到着した。歩くと 22,3 分はかかるため午前中に 1 便しかないイーグルバス東秩父行 10 時 45 分に駅前から乗車して鉢形城歴史博物館に行く。博物館前で 1 か月以上前に予約したボランティアガイド氏と出会い、その案内で先ず博物館に入場し、鉢形城の戦国期の門扉の説明を受けたり、ビデオを見たり、ジオラマ・展示物の見学等で約 20 分予備勉強を行った。

北条氏 5 代の関東における城や城塞のネットワーク・人物・沿革、鉢形城は荒川・深沢川にはさまれた天然の要害であること、城の守りを中心とした工夫(馬出、土塁、障子堀等)等、博物館で攻守に優れた鉢形城の特徴を捉えることができたと思う。

寄居町は人口 3 万人強であるが充実した歴史博物館に広い駐車場設備を完備し、観光に力が入っていることが伺える。

■ 鉢形城址の見学 11:20～12:20

次は博物館でいただいた「鉢形城公園フィールドマップ」を手にガイド氏の案内で城址公園を歩いた。鉢形城址は樹木が生い茂っている公園的景観だが戦国期には今よりは見通しの効く状態であったようだ。散策コースは深沢川より外側の外曲輪⇒伝逸見曲輪⇒大手門付近⇒復元四脚門⇒伝秩父曲輪・三の曲輪⇒二の曲輪⇒伝御殿曲輪⇒本曲輪(立入禁止*)⇒笹曲輪(鉢形城復元地形模型と史跡 鉢形城址の石柱)の順番で、ガイド氏に丁寧な解説付きで案内していただいた。笹曲輪にも小さいが簡便な休憩所があり、午後の会場にも近いのでここで昼食

とした。

*なお散策予定の本曲輪は午後からの北条まつり合戦の場面で使う花火を仕掛ける場所のため立入禁止であった。

ガイド氏の説明で印象に残ったことは…外堀は幅 50m弓矢の届きにくい距離を保って掘られた。土塁が残っているが1m位削られて低くなった。深沢川は小さな溪流であるが、当時は深い川であった。荒川も現在より2mは深い水位を持っていた。三の曲輪が落とされた時のため二の曲輪に向かう道は弓矢や鉄砲で狙いやすい入り組んだ道、今より格段に深い薬研堀、直ぐ落とせる橋など工夫が施されていた。等々、攻められても耐えられる築城の工夫が多く施され、実際に地形を観察すると攻めにくいと想像できる。



復元された四脚門

■ 北条まつりをたのしむ 13:20～15:20

昼食後は城側から正喜橋を渡り玉淀河原側に向かう。宮沢賢治の歌碑と作曲家佐々紅華ゆかりの京亭など地元ゆかりのものを眺め、会場玉淀河原に入る。河原に入る坂道で武者姿の数名が休憩中であった。写真をお願いすると快く引き受けていただき一緒に記念撮影した。会場の見やすい場所はすでに満席で、見学場所の確保に苦労する。



玉淀河原への坂道で戦国武者と参加者 5・19

公開された時間より進行が遅れているのか 2 時になって武者行列が鉢形城 城主北条氏邦役を先頭に次々に入ってくる。鉢形城組は地元で結成された武者群 数グループ、姉妹都市小田原、八王子からの応援武者群、それに所沢 滝の城からの武者群、箕輪城(高崎市 100 名城の一つ)からの武者群など延々と入場が続いた。高校生の剣道部グループ武者、なかでも地元の 3, 4 年児童の可愛い武者姿の一群が目を引きいた。

一方の鉢形城攻撃軍は 4 グループ 前田利家隊、上杉景勝隊、真田昌幸隊、本多忠勝隊が主力で入場、きらびやかな武者衣装は多くは手作りであると紹介されたが太陽に反射し、美しく見事なものであった。入場時にはそれぞれの大将や武将が舞台中央で氣勢を上げ勇ましかった。総勢 300 人ぐらいと思われる武者が勢ぞろいし壮観である。



勢ぞろいした武者群 林の向こう鉢形城本丸



河原と川の中で一騎打ち・戦闘

揃ったところで袴姿の主催者や来賓のあいさつののち、河原で攻守に分かれ戦闘が始まる。集団での槍での戦い、大将同士の一騎打ちなど多彩な戦闘場面が演出され、戦闘の際には本曲輪から花火、河川敷に 4,5 門据えられた大砲の砲撃（空砲）、ほら貝などが鳴り響き戦国にタイムスリップしたような情景が見られた。

戦闘に入るのが事前の予告より多少遅れ、時間の都合で早めに退出した方もいたが、大方の方は十分楽しめたと推察する。会の活動が寄居では流れ解散のような形になってしまった。

来週 5 月 26 日は滝の城まつりが開催されることを滝の城の武者代表が会場であいさつされた。滝の城まつりも盛り上がりを期待したい。

*鉢形城の戦闘の歴史に関する小説・参考図書

井伏鱒二著 1963 年新潮社刊 「武州鉢形城」

川村掃部著 1990 年新人物往来社刊 「鉢形城戦記―関白秀吉 関東征伐」

小野文雄著 山川出版社刊 「埼玉県の歴史」

中田正夫著 揺籃社刊 「戦国の城は民衆の危機を救った」



城跡の案内プレート

(史跡鉢形城址（標柱）の立つ 笹曲輪 に設置されている)



復元鉢形城地形模型（笹曲輪）



北条まつり 主催者・来賓あいさつ



武者隊の入場・集結（玉淀河原）



鉢形城軍・豊臣方の戦闘（玉淀河原）